

事務局だより

SHIGENKAI

示現会

N07

2020・11・15

- 今後の予定
- 日展開幕
- <特集 1> 日展初入選のことば
- <特集 2> コロナに負けずに

20年度もあとわずかになりました。ほとんどの行事が中止となる中、リモートの研究会、理事会、支部においても支部展、公募展など3密を避ける方法を模索しながらですが実施することができました。なかなか終わりが見えないコロナ禍ですが、次年度に向け少しずつ動き出しております。11月5日、理事会が開催され、今後の予定が協議されました。また、日展が開催され、示現会からも大勢の入選者が出ましたうれしいお知らせです

11月5日理事会にて今後の予定を協議しました。決定事項は紙面をご覧ください。

今後の予定

事務責任者 井上武

11月に入り、残すところ1ヶ月余となりました。73回展は残念ながら中止となりましたが、そろそろ74回展の準備を始めねばならない時期となりました。73回展の中止を決定後、国立新美術館も閉館となり我々の判断も結果的には間違いではなかったわけですが、では今現在、中止を決断した3月時点とくらべて周辺環境はどう変わったのでしょうか。日々の感染者が大幅に減少傾向にあるか、否です。コロナウイルスへのワクチンが開発されたか、否です。現状は何も好転していません。ただ唯一いえるのは、我々のコロナに対しての意識が変わってきたことです。マスク着用にしても、当初は外からのウイルス侵入からわが身を守ることであったのが、今はマスク着用は外に対してウイルスを飛散させない、人に迷惑をかけないという意識にかわってきました。それが、自分の置かれている小さな集団から地域、そして全国へと敷衍していきました。コロナとの共存、長期戦を覚悟しなければなりません。我々の意識変革の下で、基本的な事項を守りつつ、コロナと共にそろそろ動き出すにはどうすればいいか新しい活動様式を模索しているところです。

11月12月の予定

- 11月5日理事会（終了）
* 今後の示現会の行事に対しての計画を話し合いました。
- 11月27日 14時集合 システム会議及び班長会議
（事務局、各係班長、ヤマト、東美、六光社）
・システム会議終了後班長会議
（事務局、各班長は出席ください。）
- 12月6日 発送
・できるだけ少人数で実施
係には別途案内を送ります。

第74回示現会展について

現在、開催の方向で計画を進めておりますが、今後、どのような状況になるのか見当がつかないところがあります。さらに状況が悪化した場合については再度の検討をいたします。

- 2月16日(火) 会計監査及び理事会
* 理事会において、74回展開催の是非を検討、最終決定する。

2021年度前半の予定

- ・ 1月10日(日) 新年会 中止
- ・ 1月17日(日) リモート研究会
- ・ 1月23日(土) 発送業務。少人数または二日間で対応
- ・ 2月14日(日) リモート研究会
- ・ 2月16日(火) 会計監査、理事会
- ・ 3月7日(日) 書面決議による「総会」とする

74回展・審査員について

会場となる国立新美術館より審査室の入場制限が提示され、審査員の数は18名に限定されます。またコロナ禍の状況でもあります。各支部からの上京も危険を伴うことでもあり、74回展に限り、特例本部役員での審査を行うことにいたします。

○ 展覧会日程

- ・ 3月14日(日) 展覧会備品準備
- ・ 3月18日(木) 受付設営
- ・ 3月19日(金) 業者搬入
- ・ 3月20日(土) 21日 個人搬入
- ・ 3月22日(月) 写真撮影
- ・ 3月23日(火)・24日(水) 審査
- ・ 3月25日(木) 入選者発表
- ・ 3月31日(水) 開会
- ・ 4月12日(月) 閉会

日展開催

注意し、無理のない観賞を



改組 新 第7回日展が国立新美術館で開催されました。示現会からも大勢の入選がありました。それらの方々の作品と、遠山厚史（無鑑査）日展会員の成田禎介、井上武、中川澄子、佐藤祐治、錦織重治、そして今回審査員を務めた大淵繁樹（日展準会員）の作品が展示されました。今回の日展では初入選が9名という例年にない嬉しい結果となりました。このようなコロナ禍の状況ですので、示現会として例年開催しております「自祝会」は実施いたしませんでした。遠方よりお出かけの方は交通機関、宿泊、飲食などに十分注意を払いましょう。また、美術館ではマスクの装着等鑑賞のための注意事項がありますのでお気を付けください。裏面に初入選の方々の言葉を載せてあります。

<審査に関すること>

- ① 審査員18、進行4、記録3、場内管理2、東美5、ヤマト4で実施。
- ② 昇格、および受賞者
・ 3月25日(木) 大臣賞の選考、決定
理事会にて各賞、昇格の決定

<その他・展覧会に関すること>

- ・ 3月26日(金) 支部長会 中止
- ・ 3月27日(土) 部屋割り
- ・ 3月28日(日) 受付撤収、バックヤード業務終了
- ・ 3月30日(火) 陳列
- ・ 3月31日(水) 第74回示現会展開始
表彰式（関係者のみ）実施
出品者懇親会は中止
・ 4月12日(月) 展覧会終了 撤去
打ち上げ会は中止

特集1

日展初入選 おめでとうございます

吉田 真（東京・準会員）

先生方示現会の方々ののおかげという他はありません。リモート研究会も大変勉強になりました。動画を何回も見、ご指摘された点が修正されているかどうか、おかしいところはないか、見直しました。修正の結果最初の写生とはかなり違うものになりましたが、絵として成立させていく過程なのか、と理解しました。次も頑張ります。



増田美知子（兵庫・会員）

一度でも良い日展に入選したいというのが夢でした。朗報を聞いた時は入選作のモデルになった孫たちも驚くほどの喜びようだったと思います。これも本部の先生方の3度のご指導と、兵庫支部の皆様のおかげがあったからだと思っております。これからも楽しく描き続けていきたいと思っています。



審査に参加して 大淵繁樹

コロナ過の中、第7回日展が開催されました。

日展出品を目指した、皆さんの力作を審査で見る事が出来ました、審査における大変さを肌で感じ、勉強することが出来ました。

日展は具象絵画を基本とした作品が主流になっています、一生懸命にしっかりと、何を描き表現したいかを描いた絵に好感が持たれます。

また、描き込んだタッチや絵の具の付け方など、表現が大切だと感じます。

今後、日展に挑戦する場合には、描きこみが大事です、粘り強く最後の一筆を大切に、いい絵を描いて下さい。



熊谷昭彦（神奈川・準会員）

第7回日展に入選でき驚いています。嬉しいです。夢のようです。成田禎介先生にご指導いただき制作してまいりました。先生の作品の山の風景に憧れ、山を描いて示現会展に出品して十余年。毎回、会員の先生方からご講評を頂戴して表現してきましたが、今回なんとかその成果が出たのでしょうか。お世話になった先生方、ともに集まり描いてきた仲間の皆様に感謝申し上げます。これからも老骨に鞭打って精進していくつもりです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

松本 武（東京・会員）

好きな絵を描いてきてやっと入選。嬉しさもひとしおです。先生方のご指導あったのことに感謝しています。還暦を過ぎた頃示現会を知り、モデルを描けるのが魅力で仕事の疲れも忘れる、夢中の日々でした。10年前の真夏、日展出品者の頑張りを目の当たりにして触発。以後出品を続けています。今後も入選を励みに精進します。

山下千鶴（兵庫・会員）

理想だけ高く意気込んでいた頃は少しも前進せず、穴に落ちるばかりでした。それでも諦めずに続けてきて良かったです。今回の作品は陽と陰を含む空気感を出したいと祈りながら描きました。いつもご指導くださった先生方、支えてくださった皆様に感謝申し上げます。五感に響く生きた絵が描けるよう、これからも精進して参ります。

岡本昭子（兵庫・会員）

コロナの不穏な中、信じがたい日展入選の報を頂きました。かつてもう少し絵が学びたく自身で「示現会」を選び入会させて頂いた本部の先生方の指導を支部員全員で受け、至福の時を重ね学ばせて頂きました。決めたのは3回の研究会だったと感謝感謝です。ありがとうございました。

小野隆弘（山形・会員）

宮定真弓先生から「油絵の色の美しさ」を教えていただきました。佐藤祐治先生は丁寧な描き込むこと「自分の良さを忘れてはならない！」「あなたの良さは〇〇だ！」と、自分の作品作りの方向性を示して下さいました。それらのご指導のおかげで私は初出品し初入選できました。「ありがとうございました。」

鈴木貞士（千葉・会員）

日展入選の知らせに思わず拳を握りしめました。一度は感じてみたいと思っていたこの高揚感！コロナ禍での研究会に USB メモリーで初めてリモート参加(7/19・9/6)し、的確なご指導のおかげと感謝しております。私69歳、もう少し絵描き人生を楽しみます。ありがとうございました。

相馬賢二（青森・会員）

地元の祭り(人物)を通し震災からの復興をテーマにしてみました、行き詰った時期もありました。地元の風景に取り組んだこともありましたが、本部の先生方のご指導もあり、もとのテーマで心機一転挑戦してみました。コロナ禍で研究会は写真での参加となりましたが、貴重なご指導いただき、初めての日展入選を果たすことができ、感無量です。

特集2

コロナに負けずに!

示現会出品し70年という
持林さんからの言葉です。
楽しいカッともいただきました。

示現会出品は3回展からです。「若い画家たちのために」という安井曾太郎の一文があり一生懸命に読んだものです。今読んでいろいろと心に触れること、反省させられることばかりです。描くには対象をよく見て 描くことが大切です。自然によつとばかりです。描くには対象をよく見て 描くことが大切です。今後とて正直に勉強することで確実な歩みを進めたいと念じています。今後とも示現会の皆様とともに一層進化の道を行っていきたく考えてます

持林英二郎（東京・会員）



ホームページ をご覧ください

下のバーコードをスマホなどで読み取ると示現会のホームページが出ます。NO1からの事務局だよりも見ることができます。

